

50

熟練の職人達が作る優しい『和のあかり』 江戸時代の行燈から最新のLED照明も製作

都行燈株式会社

miyako andon

TEL.03-3803-1755 FAX.03-3803-1756

URL <https://www.miyako-andon.com/>

木崎 貴幸
会長

代 表 者：代表取締役 木崎 雅徳

所 在 地：〒116-0014 荒川区東日暮里4-26-10

資 本 金：1,000万円

従 業 員：5人

創 業 年：明治20年代

業 種：照明器具製造販売業

事業内容：行燈・各種和風照明器具

企画製造販売

こだわりに応える

創業は明治20年代。当初は、日本の組子技術をあしらった輸出向け額縁を製造していた。和風照明器具作りを始めたのは、昭和初期、2代目の時である。その後、3代目の時に和風照明器具販売の販路を拡大し、4代目で現会長の木崎貴幸氏に経営が引き継がれてからは、弟の木崎雅徳代表取締役とともに、著名な建築家や若手建築家などの和風照明器具製作に力を注ぎ、宮内庁や数寄屋の料亭・旅館へも納入されている。



イメージポスター

特注品にも対応しているが、要求仕様の照明をそのまま作るのではなく、顧客へより良い企画提案を行う照明アドバイザーとしての側面をもっている。商談を行うショールームと工房を近接配置していることでデザイン詳細、材料、工法などの検討を円滑に行なえることが適切なアドバイスに繋がっている。

自社ブランドを広く発信する

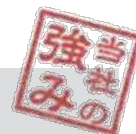
4代目に経営が引き継がれてからは、ブランド戦略を進め、認知度の向上を図っている。例えば、数年前にショールームを設立し、カタログではわからない製品の良さを広くアピールしている。また、ワークショップでは、多くの人に行燈作りを実体験する機会を提供している。その結果テレビをはじめとするメディアにも多数とりあげられ知名度は向上しつつある。

今後も、自社ブランドの更なる認知度向上に努め、そのための取り組みとして、今までにない新製品を提案していくという。



本社兼ショールーム 外観

デザイン性を極めた和風照明器具づくり



当社の強みは、なによりも、デザイン提案力である。そもそも、和風照明の代表である行燈とは、室町時代に禅僧が使っていた携帯用の照明器具が一般に広まったものといわれている。それを、現代の感性を交えながら、一種の美術品といえるまでに昇華させたものが当社の行燈をはじめとする和風照明器具である。基本は、手漉きの和紙を用いるが、それに拘ることはなく、デザインのためには、機械漉きの和紙や、和紙調のアクリル版も用いる。そうして生まれた製品は、古風なものからモダンなものまで幅広いデザインをもつ。また、デザインを現実のものにするための、技術力も確かなものであり、大手照明器具メーカーからのOEM生産も請け負う。仕事をきっちりと行い妥協しないことを信条に、手作りの和風照明器具作り一筋に何代も取り組み続け、こだわりのあるユーザーから支持を得ている。



主力製品

回主な認証・実績 等

・第6回東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞 奨励賞・東宮御所、浅草ビューホテル、帝国ホテル、那須ロイヤルセンター、新橋演舞場、妙心寺、石川県庁、富士宮市役所、杉並区役所、志賀町役場などへ製作協力